

《原 著》

心電図同期心筋 SPECT で左室容積をより正確に測定する試み

Field Change Conversion での検討

田島 修* 芝崎 匡樹* 星 俊子** 今井 嘉門***

要旨〔目的〕心電図同期心筋 (G)-SPECT を QGS ソフトで解析する際、左室容積を正確に測定するために再構成処理領域を半分にする方法 (Field Change Conversion: FCC) を提案し、その有用性を検討した。〔方法〕対象は G-SPECT と左室造影 (LVG) を 2 週間以内に施行した 38 例で、G-SPECT は安静時に、汎用コリメータにて 64×64 マトリクスで撮像した。まず左室容積は通常の方法 (Original: ORI) で解析した後、FCC で解析した。求めた拡張末期容積 (EDV)、収縮末期容積 (ESV) を LVG と比較検討した。〔結果〕EDV (ml) は ORI: 71 ± 19 , FCC: 83 ± 20 および LVG: 98 ± 23 で (相互間 $p < 0.001$)、ESV (ml) は ORI: 28 ± 12 , FCC: 34 ± 13 および LVG: 41 ± 14 であった (相互間 $p < 0.001$)。FCC は LVG より有意に小なるも ORI より有意に大であった。〔結論〕QGS ソフトで左室容積を求める際、FCC は有効な手法と思われた。

(核医学 39: 135-142, 2002)